



Amappo



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第230号 2021年5月号

SINCE 2002.4.1.



発行日令和3年4月19日
 発行元有限会社佐野工務店
 〒237-0068
 横須賀市追浜本町1-25
 TEL 046(865)4010
 FAX 046(865)6139
 http://www.sano-k.net/
 info@sano-k.net

Enjoy HOME 「駅前にバスタ」

イタリア料理店の新規開店のお知らせではありません。

国土交通省関東地方整備局と横須賀市は、追浜駅前に設置する「地域密着型バスタ」（バスタプロジェクト）を2021年度に新規事業化することを目指すと発表しました（着工・完成時期は未定）。追浜駅周辺は、①駅前広場が狭小でバスやタクシーの乗降場が分散している ②道路の交通混雑が常態化している ③歩行者用デッキのバリアフリー化が不十分である などの課題がある一方で、追浜の「まち」が持つポテンシャルとして、①日産自動車や住友重機などを中心とする産業が活発で若い世代の人口が増加している ②横浜DeNAベイスターズの拠点施設や地元企業のスポーツイベントなどスポーツタウンとしての賑わいがある などが挙げられ、「えき」「まち」「みち」が一体化したまちづくりに向けて少しずつ動き出しました。国土交通省と横須賀市でまとめた **追浜駅交通結節点整備事業計画** [検索](#) には少し先の「追浜の未来」が描かれています。



同封の「Oppajimail#003」をご参照ください。

※「バスタプロジェクト」とは、鉄道やバス、タクシーなど多様な交通モードがつながる、防災施設を兼ねた集約型の公共交通ターミナルを官民連携で整備するプロジェクトです。

（参考資料「日本経済新聞」「神奈川新聞」「国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所」「横須賀市経営企画部まちづくり政策課」）



皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
 創業 1960.1.20. **Next100**
 創刊 2002.4.1.

国道357号の延伸により予想される交通渋滞を緩和するための対策として、横須賀市は、追浜駅前の整備事業をはじめ、追浜駅周辺地区の目指すべき将来像・取り組み方針を、それぞれのエリアの機能を明確にするため、8つのゾーン（①駅前にぎわい、②地域交流、③スポーツ交流、④交通結節、⑤地域魅力創出、⑥にぎわい拠点形成、⑦防災機能、⑧駅西方面アクセス向上）と5つの軸（①広域連

～追風～ いつも未来の風吹く街

携、②水辺防災対策、③水辺の歩行者周遊、④人にやさしい歩行空間形成、⑤地域資産活用連携）に区分し、追浜駅周辺地区の現状と課題をわかりやすく分析しながら「快適で安全なわくわくする ヨコスカ未来の玄関口」という計画を発表しました。 **追浜駅周辺地区グランドデザイン** [検索](#) には少し先の「追浜の未来」が描かれています。



同封の「Oppajimail#003」をご参照ください。

（参考資料「横須賀市経営企画部まちづくり政策課」「すまい造りメール第222号」）

よこすか文学館

<65>

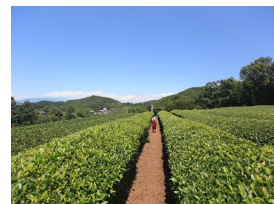
難病による闘病生活の中
 珠玉の作品を作り続けた
 横須賀出身の俳人折笠美秋（おりかさ・びしゅう 1934-1990）の作品を紹介します。

八十八夜は雨
 歩けねば歩く夢

第五回

折笠美秋

美秋の俳句には、闘病の気持ちを強い調子で詠んだ、「燕ら去る西空 俺死んでたまるか」といった句がある一方、「ついに足も萎え果てゆくか雨の秋」のような、自分の病を淡々と描く句もあります。また、「歩く夢覚め 夜半の雪を告げらるる」のように、動くことのできない現実と、自由な夢の世界を詠み込む句もあり、掲句もその一つ。「八十八夜」は、立春から88日目、5月1～2日頃にあたり、唱歌にもあるように茶摘みの最盛期です。



洗足学園中学高等学校
 教諭 中島正二

横須賀製鉄所物語（柴田日向守の渡仏）〈75〉

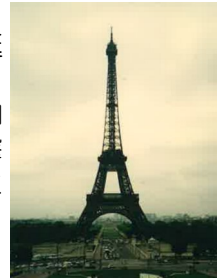
52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

横須賀製鉄所建設に向けて徳川幕府から理事官をフランスに派遣することになりました。理事官はフランス人技術者の横須賀製鉄所への採用と大型船の建造に要する機械類の購入が主な目的で、その他軍港や海軍施設の視察にも当たりました。徳川幕府は外国奉行柴田日向守を理事官に任命しました。

柴田日向守は文久遣欧使節として、1862年（文久2年）に日本の開港・開市の条約の期限の延期についての交渉に当たりました。帰国後、外国奉行に任ぜられましたが、1864年（元治元年）には尊皇攘夷を旗標に、長州藩は関門海峡を通過する外国船を砲撃したことにより被害を受けた四カ国（イギリス、オランダ、フランス、アメリカ）はその報復として、四カ国の艦隊が下関を砲撃し、長州藩の砲台は悉く破壊され一部地域は占領されるなど、国際的にも非常に厳しい緊張関係にあり、国内的にも薩摩・長州両藩による討幕運動が動き始めたときでもありました。そして、1865年（慶応元年）に自身2回目のヨーロッパ派遣となりました。

この柴田日向守一行の渡仏に当たっては、『横須賀海軍船廠史』によりますとロッシュ公使が自らの部下に指示するように、10項目について指示をしています。ロッシュ公使は柴田日向守一行の成功を心から祈っていたものと思われます。

柴田日向守一行は、1865年（慶応元年）閏5月5日イギリスの船でフランス、イギリスの2カ国に向け出港しました。そして、マルセイユ港に入港しここで初めてヴェルニーに会い、若いこの青年に横須賀製鉄所建設の大事業が出来るのかと考えさせられました。その時、ヴェルニーは27歳の若さでした。しかし、その後ヴェルニーと帯同しての行動には目を見張るほど素晴らしいものでした。そして、最初の大きな仕事に取りかかります。パリに入り、外務大臣に面会しヴェルニーの横須賀製鉄所建設の責任者としての要請、そして、陸軍の教官の招聘について交渉を行いました。（元横須賀市助役 井上吉隆）



エッフェル塔
（建設は1887年から）



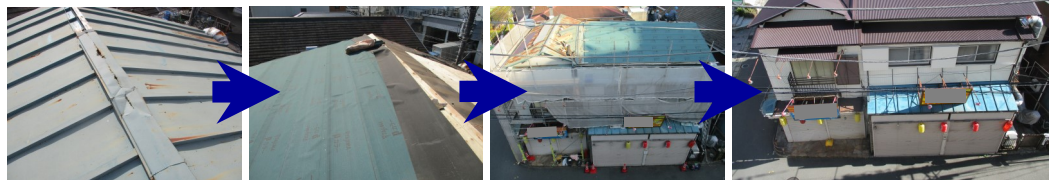
「横須賀製鉄所物語」は、幕末の1865年（慶応元年）、江戸幕府の勘定奉行小栗上野介の進言により、フランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーを招き、横須賀製鉄所（造船所）として開設され、その後明治新政府に引き継がれ、1871年に完成し、日本の近代化に大きく貢献した横須賀製鉄所を史実に基づきさまざまな角度から再考察することをテーマとしています。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

一昨年の9月末明に三浦半島を直撃した台風15号により、2階の屋根（瓦棒葺き）の棟包部分の一部が被害を受け、応急処置をさせていただいたものの、台風関連の緊急な補修工事が集中したため、その後手をつけることができず、しばらくの間お待ちいただき、ようやく、屋根の張替え工事を担当させていただきました。ご紹介させていただきます。

築40年ということもあり、全体的な補修が必要ということで、全面を張り替えることになりました。既存の板金を剥がし、既存の下地の上から、9mmのラーチ（針葉樹合板）を施工し、その上からルーフィングフェルトを施工し、仕上げました。また、2階の足場を設置した部分の外壁の塗装をしました。長い間、ご迷惑をおかけしました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォア、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2021」A-9歩ZONE版（永久保存版）を（Blog「Oppamap2021」より）ダウンロードすることができますので、是非ご利用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索